

岸田てつはる 区政報告

発行所：自民党大田区民連合
(政務調査係)

住所：大田区蒲田5-13-14

電話：03-5744-1480



自民党大田区民連合
岸田 てつはる 議員

大田区では、区の魅力を更に高めていくため、日夜、「まちづくり」に取り組んでいます。一例としては、区内の中小企業をはじめとする地域経済の活性化や優れた日本の文化、そして、おたの魅力を発信していくための羽田空港跡地整備事業、東急線の蒲田駅から京浜急行線の京急蒲田駅までの約八〇メートルを接続することにより、渋谷・新宿・池袋から更に埼玉方面までの東京圏北西部の新たな広域交通ネットワークの構築、災害時や緊急時の代替ルートの役割も担う、いわゆる「蒲蒲線」の整備計画などがあります。

また、身近なところでは、今年の夏頃の予定で、洗足池公園に全国で初めての勝海舟記念館のオープンが控えています。最近では、園路のバリアフリー化など洗足池公園自体の整備も随分進んでおり、小さいお子さんから高齢者の方々まで幅広く安全に安心して公園内で遊んだり散策をしたりできるようになりました。

今後は、洗足池公園が、勝海舟関連だけでなく、日蓮上人や名馬「池月」に関する伝承についても多くのの方々を知っていただくことにより、今まで以上に訪れてみたい場所になればと期待しています。

今回の区政報告では、名馬「池月」ともう一頭の名馬の伝承と、千束地域の「まちづくり」の近況について報告いたします。

大田区に伝承される 源平合戦で活躍した2頭の名馬について

毎年秋に大井競馬場において池月・磨墨賞(大田区长賞)というレースが開催されています。このレース名にある「池月(いげつき)」と「磨墨(するすみ)」というのは840年ほど前のいわゆる源平合戦の一戦、宇治川の戦いの折に活躍した名馬の名前から取られています。どちらも類い希な名馬と言うことで関東を中心に様々な伝承が全国各地に残されています。そして、大田区には両馬に関する伝承があります。

池月について洗足池周辺で伝承されている話は、1180(治承4)年、伊豆に流刑にされていた源頼朝が平家打倒のため拳兵しました。しかし、現在の小田原市付近での石橋山の戦いで惨敗し、海路で房総半島へ落ち延び、現地の豪族などを従えつつ軍勢を整えながら、陸路源氏ゆかりの地である鎌倉をめざしました。そして、その道中、千束郷の大池(洗足池)で宿営していたところ、身体に浮かぶ白い斑点が池に映る月影のように見える立派な野馬が現れ、それを捕獲し、頼朝は池月と名付け愛馬の一頭にしたと伝承されています。現在、千束八幡神社境内には池月の像が建立されています。また、大井町線の北千束駅は、1928(昭和3)年の開業当初、池月駅と命名されました。その後、1930(昭和5)年に洗足池公園駅となり、1936(昭和11)年に現在の駅名に改名されました。



一方の磨墨については、やはり各地に様々な伝承があり、その中には現在の大田区の周辺で生誕し頼朝の手に渡ったという説もあります。

1184(寿永3)年、源氏一門の木曾義仲は平家を都から退けましたが、都の治安維持の失敗と朝廷との不和により、頼朝から弟の義経らに義仲追討の命が下されました。この戦の出陣の折、佐々木高綱は池月を、梶原景季は磨墨を頼朝より与えられました。両名ともに奮起し、義仲軍と激突した宇治川の戦いにおいて先陣争いをしました。この先陣争いは佐々木高綱が勝ち取り、後世まで語り継がれることになりました。

源平合戦の後、池月は佐々木高綱の館があった現在の新横浜駅周辺で余生を過ごし、死後丁重に葬られ神社が建立されました。今では馬頭観音堂に変わっていますが同地で祀られています。磨墨については、南馬込周辺の谷に落ち落命したと伝わっており、昭和初期に地元の有志により磨墨塚が建立されました。また塚の近くには、梶原景季の父景時にゆかりがあると伝わる万福寺があり、磨墨の像が建立されています。

池月と磨墨について、大田区周辺に残る伝承を中心に紹介してきましたが、前述の通り、この両馬に関しては全国各地に様々な伝承があります。以前、その中のひとつの池月伝承が残る宮城県大崎市へ東北方面への視察の折、脚を伸ばしたことがあります。市教育委員会の方にお話を伺い、岩出山総合支所地域振興課の方に池月が生誕したと伝わる池月沼と池月馬籠神社へ案内していただきました。当地においても池月の伝承について若い職員の方はよく知らないとのことでした。大田区でも同様で、地域の伝承について興味を持たれているとは言えません。石川県や島根県の池月伝承が残る地域では、池月の名を冠した日本酒作られており地域の伝承が風化することを防いでいます。大田区においても勝海舟を顕彰すると共に、池月や磨墨の伝承を広く紹介していくことにより、更なる地域の活性化が図られると考えます。そして、池月伝承の残る全国各地の地域と交流が深まれば更に良いと考えています。

区立赤松小学校建替を含む (仮称)北千束二丁目複合施設について

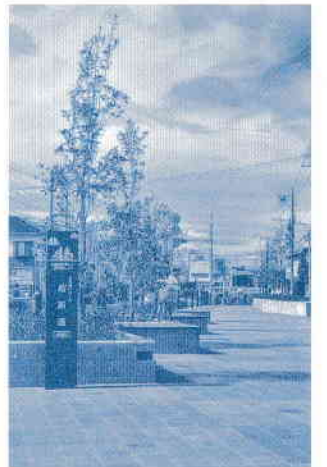
北千束駅そばにある区立赤松小学校の現校舎は、1959(昭和34)年に建設され今年で築60年になります。また、近隣にある千束特別出張所は、1966(昭和41)年に建設され築53年となっています。どちらも災害時には防災拠点となりますので建替が急務でした。そこで小学校と特別出張所、高齢者の方々の相談窓口である地域包括センター、そして地域備蓄倉庫が一体になった複合施設として整備することとなりました。現在は基本設計と実施設計に取りかかっており、来年以降に仮設校舎の設置と既存校舎の撤去が始まり、2026年頃の完成を目指しています。概略は1~4階が赤松小学校、1階と地下1階の一部が放課後ひろば、そして地下1階に千束特別出張所と地域包括センター、地域備蓄倉庫となります。詳細につきましては、説明会が開催される予定ですので脚を運んでいただければと思います。



大岡山駅~北千束五差路までの 大田区画街路第1号線の遊歩道整備について

大岡山駅の広場から環状七号線北千束五差路までの710mの道は、大田区画街路第1号線という都市計画道路です。東急目黒線の線路の上の部分に蓋をかける工事の後、更に遊歩道と道路の拡張工事が現在も行われています。

新しい遊歩道は、「ふれあいロード 桜新道(さくらしんみち)」という名称で、大岡山駅側から西の島・中の島・東の島と3ブロックに分割して整備が進んでいます。昨年末、第一期工事の中の島が完成しました。今年中には東の島が、来年中には西の島の遊歩道が完成する予定となっています。遊歩道の整備と併せて車道の整備も行われており、全ての工事が完了するは2023年中頃と予定されています。まだ途中ですが、この一連の工事により、車で大岡山駅方面から北千束五差路で環状七号線へ出る際の渋滞が、右折専用レーンの新設により緩和される効果が出てきています。また、今までは歩道らしいスペースがありませんでしたが、遊歩道が全て完成すれば歩行者も安全に通行できるようになり、地域の美観向上にも期待が高まります。



区議会へ区民の皆さんの声を届けます。

皆様のご意見やご要望をお待ちしております。

自民党大田区民連合 TEL: 03-5744-1480